

〈報告〉

新・未来プロジェクト-Ⅲ

新・未来プロジェクトⅢ活動総括

原 田 英 典

京都大学大学院地球環境学堂

(〒606-8501 京都市左京区吉田本町 E-mail: harada.hidenori.8v@kyoto-u.ac.jp)

原稿受付 2014.1.7

EICA: 18(4) 49

はじめに

「新・未来プロジェクト」は2005年よりEICAで開始された「未来プロジェクト」(I~V期)をベースに、その卒業生たちが企画・運営をする形で2011年よりリニューアルした活動である。テーマを設定して講師を招き、参加者間でのグループワークを行うことで、組織や企業の枠を越えた交流および環境分野の若手技術者・研究者のネットワーク形成を目指している。本稿では、2013年1~10月にわたった新・未来プロジェクト第Ⅲ期の報告を行う。

活動内容

今期の共通テーマは「これからの日本とエネルギー」とした。本テーマのもと、産官学より計21人(産17・官2・学2)が参加し、プロジェクトを実施した。なお、本年度の運営は関西地区を中心に、未来プロジェクトの卒業生7人(岩田憲和氏(堀場製作所)、日下部武敏氏(京都大学)、佐藤圭輔氏(立命館大学)、田子靖章氏(メタウォーター)、田中敦志氏(堀場アドバンステクノ)、内藤聡氏(タクマ)、および筆者)が世話人となり行った。

今期の活動は5回のセミナー(内1回は合宿)、EICA研究発表会でのグループ研究発表、およびそれにむけた中間発表会よりなる(Table 1)。第1~5回の各セミナーは1時間から1時間半程度の講演と、その後のグループワーク(グループ討論+発表、あるいはディベート)より構成した。セミナー講師には企業、研究機関、行政、NPOといった異なる立場の識者を迎え、多角的な観点から考える場を提供した。各回のグループワークは、異なる立場の参加者間での共創の経験とコミュニケーション能力向上の場でもあるが、第2回セミナー(宿泊あり)ではほぼ徹夜で討論するなど、参加者は極めて熱心にこれに参加した。

本プロジェクトではネットワーク形成とともに、グループ研究発表を通じて参加者が自ら考え、一段立ち

Table 1 Outline of Shin-mirai Project III

回・日時	内 容
第1回セミナー (1.21)	講師：当麻潔(大阪ガス)「わたしたちの暮らしとエネルギー～賢いエネルギーの使い方と豊かな暮らしを～」
第2回セミナー (合宿)(4.19-20)	講師：山下紀明氏(環境エネルギー政策研究所)「自然エネルギー政策を活用する」
第3回セミナー (5.24)	講師：石田文章氏(関西電力)「スマートグリッドとスマートコミュニティーその現状と課題ー」
第4回セミナー (7.1)	講師：藤井絢子氏(菜の花プロジェクトネットワーク、碧いびわ湖)「地域からのエネルギー改革：菜の花プロジェクトから学ぶ」
第5回セミナー (8.27)	講師：富家信次氏(滋賀県)「～地域からエネルギーを考える～滋賀県における再生可能エネルギーの振興について」
中間発表会(10.7)	研究発表会に向けたグループごとの進捗発表。
EICA研究発表会 (10.31)	参加者による発表グループごと(計4グループ)の3分間の口頭発表およびポスター発表

上がって見ることができる思考回路を形成することを狙っていた。発表内容を作り上げるプロセスでは、なかなか殻を破れずに最後の研究発表会直前まで心配したグループもあったが、アドバイザーである清水芳久先生(京都大学)、福嶋良助氏(堀場製作所)、世話人あるいは講師からの手厳しい(?)助言を受け、議論に議論を重ねた末に、最終的にはいずれのグループもその内容を大きく飛躍できた(内容の詳細は各グループの研究報告を参照)。研究発表会当日には世話人としてもその飛躍に驚き、参加者たちの発表を大いに楽しむことができた。普段とは違う共創をしたこの経験を今後の各人の仕事にいくらかでも生かしていただければと思うと共に、この経験をともにした同士(他の期を含め)がネットワークを築き、将来につながる豊かな人間関係が形成されることを願ってやまない。

末筆とはなりませんが、EICA事務局の尽力、アドバイザーの助言なしでは新・未来プロジェクトⅢは成り立ちませんでした。この場を借りて御礼申し上げますとともに、今回の企画・運営は世話人にとっても貴重な経験になったことを申し添えて、本稿の締めとさせていただきます。